



日本歌唱芸術協会（本部：沖縄）

Japan Singing Arts Association (Headquarters:Okinawa)

2023 年度 研修・演奏会 プログラム

講師：木下 牧子（作曲家）

10月21日（土）パレット市民劇場

(1)合唱団の公開レッスン 10:30 開場 11:00 開演

(2)木下牧子作品演奏会 18:30 開場 19:00 開演



日本歌唱芸術協会公式ホームページ <https://www.jsaa-okinawa.org/>

ご挨拶

本年2023年の日本歌唱芸術協会（本部：沖縄）定期活動の一つ「研修・演奏会」は、作曲家・木下牧子氏を沖縄の地にお招きして開催の運びとなりました。

木下牧子氏は、現在の日本において、その作品がもっとも多く演奏されている作曲家のお一人であり、特に、歌曲および合唱において、その人気は絶大なものがあります。近年では、木下牧子作曲のオーケストラ作品が各地で恒例の演奏会「ベートーヴェン交響曲第九番」の前に演奏されることが多くなっております。ますます、作曲家として充実なさっている木下牧子さんをお招きできることは大きな喜びです。

木下牧子作品の魅力は、皆さま、それぞれに良くご存じと思いますが、本日は、作品を生んだご本人である木下牧子さんご自身とご一緒に、合唱曲と独唱曲の両方に交わる「場」を設けましたので、更なる演奏向上の機会となることを願っております。

木下牧子さんと、真剣に、そして楽しく過ごしながら、木下牧子作品に込められている、優しくも強くしなやかで豊潤な音楽の響きを共に楽しんでいただけたら幸いです。

日本歌唱芸術協会理事一同（文責：豊田喜代美）

木下 牧子 *Makiko KINOSHITA*



東京生。管弦楽、吹奏楽、室内楽、器楽、合唱、歌曲とその活動は幅広く、中でもオペラを含むヴァリエティ豊かな声楽作品は抜群の人気を誇る。最近ではオーケストラ作品を精力的に発表して注目を集めている。東京芸術大学作曲科卒業、同大学院終了。大学院在学中に合唱組曲「方舟」、吹奏楽曲「序奏とアレグロ」を発表してプロ・デビュー。管弦楽のための「幻想曲」で第51回日本音楽コンクール作曲部門（管弦楽曲の部）入選。管弦楽のための「オーラ」で第9回日本交響楽振興財団作曲賞入選。'03年オペラ「不思議の国のアリス」（モーツァルト劇場創立20周年委嘱）初演で三菱UFJ信託音楽賞奨励賞受賞。

2018年11月豊田喜代美ソプラノリサイタルにて長編「暁の星」委嘱初演。2023年に大幅に手を入れたモノオペラ版を豊田氏のCDレーディングで改訂初演。

木下牧子公式サイト

<http://www.m-kinoshita.com>

木下牧子作品 合唱団公開レッスン

10時半開場 11時開演 各団体60分ずつの受講

受講合唱団名・指揮者・受講曲

1. 女声合唱団「スウィング」

指揮者：野原 樹子 *Motoko Nohara*

うぐいす 詩：武鹿 悦子

風をみたひと 詩：クリスティナ・ロセッティ 訳詩：木島 始

2. 合唱団「La Flor」

指揮者：上原 清秀 *Kiyohide Uehara*

おんがく 詩：まど・みちお

3. 合唱団

「安岡中学校・金城中学校・小緑中学校」

指揮者：新里 美咲 *Misaki shinzato*

はじまり 詩：工藤 直子

司会：仲本 博貴（声楽家、本協会理事）

木下牧子「日本歌曲」演奏会

18:30開場 19:00開演

木下牧子さんと一緒に聴く演奏会

※下線の曲は木下牧子氏からのリクエスト曲です。 ※やむをえず内容が変更になる場合がございます。

ピアニスト：武田 光史 ・ 仲村渠 悠子

- ・ 風をみたひと 友利 あつ子
- ・ 《太陽は空の中心にかかる》より、食後に
○木下牧子氏よりコメント

- ・ 《太陽は空の中心にかかる》より、もし鳥だったなら 金城 理沙子
- ・ 《太陽は空の中心にかかる》より、ヴァカンス
○木下牧子氏よりコメント

- ・ 空が凝視（み）ている 金城 真希
- ・ おんがく
○木下牧子氏よりコメント

- ・ さびしいカシの木 喜屋武 いつみ
- ・ 夢
○木下牧子氏よりコメント

- ・ サッカーによせて 根神 夢野
- ・ ロマンチストの豚
○木下牧子氏よりコメント

— 休憩 —

- ・ 《竹久夢二の7つの歌》より、真実 豊田 喜代美
- ・ 《竹久夢二の7つの歌》より、赤い日
○木下牧子氏よりコメント

- ・ 《いちばんすきな人に》より、僕はまるでちがって 仲本 博貴
- ・ 《いちばんすきな人に》より、また昼に
○木下牧子氏よりコメント

- ・ 《いちばんすきな人に》より、忘却 西條 智之
- ・ 《いちばんすきな人に》より、しぬまえにおじいさんのいったこと
○木下牧子氏よりコメント

❖木下牧子氏にインタビュー：インタビュアー 豊田喜代美(声楽家、本協会理事)

演奏者が歌って感じたこと

- 人は演奏を聴いて100人100とおりに音楽を感じています。本研修演奏会では、それにプラスして、演奏者が何を感じて演奏しているのかを文章でも皆さまと共有したいと思います。

〈声楽家〉

友利あつ子

・風をみたひと

爽やかで心地よい風が吹いているような上昇する前奏に始まり、風が木々や木の葉と対話をしながら、最後の a~ ではさらに広い世界に風が吹きわっていくのを感じる。

・食後に

「青空をくり抜いて皿をつくり、雲のフライなどを料理し」という詩から浮かぶ情景の中には現実の哀愁が在ると感じる。

金城理沙子

・もし鳥だったなら

ピアノの前奏からまるで自分も大空を飛び立っているような気持ちに誘われ、歌っていると詩の通り「きらきらする歌を歌おう」と希望が湧いてくる、私自身の歌の心のような曲だと感じる。

・ヴァカンス

「もし鳥だったなら」とは異なり、どこかノスタルジックな気持ちになる曲であり、その中に佇んでいるような感覚で歌いたいと思う。

金城真希

・おんがく

「おんがく」は音が聴こえるだけでなく見えるものであり、その素晴らしさを全身で感じたい！という想いが伝わる。形のない音楽に、かみさまは触れることができるのか？と想像が膨らむ。

・空が凝視(み)ている

「み」を「凝視」と記しているのが印象的。ちっぽけな自分を見張っているような、でもすべて包みこんでくれる空。空という身近な存在だけど壮大さを感じ、イメージさせてくれる。

喜屋武いつみ

・夢

美しい旋律の流れや転拍子が詩の世界観を際立たせており「真珠のように白い光に包まれる海辺の風」の美しさと「来るな！」という砂の叫びとのギャップに死の恐怖を感じる。

・さびしいカシの木

願っても叶わない寂しさを、「慣れる」ことで受け入れていく姿にさらに深い悲しみを感じる。しかし音楽からは、悲しみと共に前向きに生きようとする姿勢が感じられ勇気が与えられる。

根神夢野

・サッカーによせて

楽しかった思い出よりも大変苦勞した時の記憶の方が強いのは何故だろうか。しかしそこで得たものは何にも変えたがいのものになると、歌っていて、背中を押してもらえるように感じた。

・ロマンチストの豚

日本歌曲になじみのない方でも、その魅力を発見できる作品であると感じた。

豊田喜代美

・真実

過去や未来ではなく、今、あなたと一緒に居る、この瞬間こそ「まこと」である、と言う夢二は真実の愛を知っていると感じる。

・赤い日

赤い夕日が落下するように暮れる東京の街を見ていて、この静けさの中にも不測の事態が予感され、再び夕日を見ることが無いのではないかという恐怖を感じる。

仲本博貴

・僕はまるでちがって

言葉の抑揚がリズムカルに出された作品である。昨日と同じ「僕」が今日を経て、憂いや希望に充ちた明日を迎えるという境遇を、強弱の幅や、言葉のエッジをきかせて表現したい。

・また昼に

まるでオペラアリアの様なダイナミックさと大きなフレージングが特徴の作品である。高低の幅に対するレガートラインを意識して、寂しい詩の世界観をドラマティックに表現したい。

西條智之

・忘却

やさしく切なげな音色が思い乱れた気持ちを抱擁し穏やかにさせていく。詩と音楽の両者が出会って生命力に溢れ生き生きしているようで清々しい気持ちにもなった。

・しぬまえにおじいさんのいったこと

おのおのの日々、幾多のものごとが濾過され、結実して「うた」となり愛するものへ捧げられる。愛とはあの世へ還るものの意識を昇華させ、永遠であり無限であることを伝えるのだと感じた。

〈ピアニスト〉

武田光史

木下牧子歌曲作品のピアノは技巧的にも伴奏の域を出ていて緻密なアンサンブルも要求される。歌曲の歌の旋律を優しく包み込んで歌の情景を演出し寄り添うように進むかと思えば、溢れ出すエネルギーがあたかもショパン作品の如くピアノパートに込められて眼前に表出され、歌手とピアニスト両者が表裏一体となってはじめてその世界観を具現出来るような曲もあると感じる。

仲村渠悠子

木下牧子歌曲作品で私が感じるのは、バスをベースにしたハーモニーの魅力である。木下氏からもご自身の作曲法ではバスの響きが不可欠と伺い納得したところである。ピアノ伴奏が時に重厚なオーケストラの様にも感じられ、単なるメロデーと伴奏ではなく、声とピアノが対話しているように感じる。